

制度と人々の厚生

Institutions and Welfare of the People

2025年、5月13日 地方財政研究会報告
早稲田大学 ・ 横浜市立大学 名誉教授
林 正寿(まさひさ)

2024年ノーベル経済学賞受賞

- 彼らは諸国間の**繁栄の差異**の理解を高めた。
- 本年度のノーベル経済学賞受賞者たちのDaron Acemoglu, Simon Johnson and James Robinsonは、**国家の繁栄のための社会的制度**の重要性を実証した。
- 国民を**搾取**する法と制度(extractive institution)を有する社会は、経済成長も良い方向への変化も生み出さない。受賞者たちはその理由を解明する。

- *Why Nations Fail, the Origins of Power, Prosperity and Poverty*, by Daron Acemoglu & James A. Robinson
- 『なぜ国家は崩壊するのか、権力、繁栄、貧困の起源』
- 経済の成功または経済の失敗の原因は**人為的政治制度と経済制度**であると結論づける。
- この書物は**地理的要因**が富裕国と貧困国の根本的な要因であるとは考えず、かわりに国家と制度の質と国家と制度が、**誰を利するか**を含めた組織的条件の重要性を強調する。
- 国家と制度がすべての人々のために機能するのではなく、**搾取的**選良のためにのみ機能するならば、国家全体の経済開発を達成することはきわめて困難となる。
- 成長要因としての**民主主義**も、この書物の中核的部分を構成する。

- *Power and Progress, Over 1000-Year Struggle Over Technology & Prosperity*, by Daron Acemoglu & Simon Johnson
- 『権力と進歩 1000年以上にわたる技術と繁栄に対する闘争』
- **技術進歩**は進歩を推進するが、繁栄が共有されるためには、民主的権利や価値観により誘導されなければならない。
- 歴史の分析により、**技術選択**が歴史の経路と権力の変遷に大きな影響を与えたことが判明する。この事実はいよいよ、現代の技術楽観主義の虚偽を暴く。
- 技術の社会に対する効果は、人類が行う**政治的選択**に依存する。産業革命は当初は勤労家族にとって悲惨な影響を与えた。
- 結果の経路を変えたのは進歩的時代の**改革**であり、強力な労働組合の台頭運動、ニューディール、最終的には大労働と大資本の間で産業の組織形態を組織し、それにより生み出される便益を、いかに国民の間に**分配**するかを関する建設的な**合意**により結果は改善された。
- 同じくAIや社会メディアも、政治的意志を糾合し、経路を変更し結果を改善するまでは、社会の大半の人々に有害なものとなる。

- *The Narrow Corridor How Nations Struggle for Liberty*, by Daron Acemoglu & James A. Robinson
- 『狭い回廊 いかに関自由と求めて諸国は苦闘するか』
- 自由は、自然界の秩序で、自動的に与えられるものではない。
- 国家は通常、個人を保護するには弱体すぎるか、独裁からひとびとが自己防衛するには強すぎるかである。
- 無政府状態と独裁との間の狭い回廊。
- 自由とは、国家と社会あるいは選良と市民との間に、微妙で間断のない均衡が達成された時にのみ出現する。
- この闘争は自己実現的であり、国家と社会を様々な能力を発展させ、社会の平穩と経済の成功と、人々の日常生活に影響を与える。

過去のノーベル経済学賞受賞者

- Nobel Prize winners by category (economics)*
- year name country** achievement
- *Officially called the Sveriges Riksbank Prize in Economic Sciences in Memory of Alfred Nobel, it is **technically not a Nobel Prize**, although it is identified with the award.
- **Nationality given is the citizenship of the recipient at the time the award was made.
- 1969 Ragnar Frisch,Norway,work in econometrics
- Jan Tinbergen,Netherlands,work in econometrics
- 1970 Paul **Samuelson**,U.S.,work in scientific analysis of economic theory
- 1971 **Simon Kuznets,U.S.**,extensive research on the economic growth of nations
- 1972 Kenneth J. **Arrow**,U.S.,contributions to general economic equilibrium theory and welfare theory
- Sir John R. **Hicks**,U.K.,contributions to general economic equilibrium theory and welfare theory

- 1973 Wassily **Leontief**, U.S., input-output analysis
- 1974 Friedrich von **Hayek**, U.K., pioneering analysis of the interdependence of economic, social, and institutional phenomena
- Gunnar **Myrdal**, Sweden, pioneering analysis of the interdependence of economic, social, and institutional phenomena
- 1975 Leonid Vitalyevich Kantorovich, U.S.S.R., contributions to the theory of optimum allocation of resources
- Tjalling C. Koopmans, U.S., contributions to the theory of optimum allocation of resources
- 1978 Herbert Alexander Simon, U.S., decision-making processes in economic organizations
- 1979 Sir Arthur **Lewis**, U.K., analyses of economic processes in developing nations

- 1976 Milton **Friedman**, U.S., consumption analysis, monetary theory, and economic stabilization
- 1977 James Edward Meade, U.K., contributions to the theory of international trade
- Bertil Ohlin, Sweden, contributions to the theory of international trade
- Theodore William Schultz, U.S., analyses of economic processes in developing nations
- 1980 Lawrence Robert **Klein**, U.S., development and analysis of empirical models of business fluctuations
- 1981 James **Tobin**, U.S., portfolio selection theory of investment
- 1982 George J. Stigler, U.S., economic effects of governmental regulation

- 1983 Gerard **Debreu**, U.S., mathematical proof of supply-and-demand theory
- 1984 Sir Richard **Stone**, U.K., development of a national income accounting system
- 1985 Franco Modigliani, U.S., analyses of household savings and financial markets
- 1986 James M. **Buchanan**, U.S., public-choice theory bridging economics and political science
- 1987 Robert Merton Solow, U.S., contributions to the theory of economic growth
- 1988 Maurice Allais, France, contributions to the theory of markets and efficient use of resources

- 1989 Trygve Haavelmo, Norway, development of statistical techniques for economic forecasting
- 1990 Harry M. **Markowitz**, U.S., study of financial markets and investment decision-making
- Merton H. **Miller**, U.S., study of financial markets and investment decision-making
- William F. Sharpe, U.S., study of financial markets and investment decision-making
- 1991 Ronald **Coase**, U.S., application of economic principles to the study of law
- 1992 Gary S. Becker, U.S., application of economic theory to social sciences

- 1993 Robert William Fogel, U.S., contributions to economic history
- Douglass C. North, U.S., contributions to economic history
- 1994 John C. Harsanyi, U.S., development of game theory
- John F. Nash, U.S., development of game theory
- Reinhard Selten, Germany, development of game theory
- 1995 Robert E. Lucas, Jr., U.S., incorporation of rational expectations in macroeconomic theory
- 1996 James A. Mirrlees, U.K., contributions to the theory of incentives under conditions of asymmetric information
- William Vickrey, U.S., contributions to the theory of incentives under conditions of asymmetric information

- 1997 Robert C. Merton, U.S., method for determining the value of stock options and other derivatives
- Myron S. Scholes, U.S., method for determining the value of stock options and other derivatives
- 1998 Amartya Sen, India, contributions to welfare economics
- 1999 Robert A. Mundell, Canada, analysis of optimum currency areas and of policy under different exchange-rate regimes
- 2000 James J. Heckman, U.S., development of methods of statistical analysis of individual and household behaviour
- Daniel L. McFadden U.S. development of methods of statistical analysis of individual and household behaviour
- 2001 George A. Akerlof, U.S., analysis of markets with asymmetric information
- A. Michael Spence, U.S., analysis of markets with asymmetric information
- Joseph E. Stiglitz, U.S., analysis of markets with asymmetric information

近接しているのに 所得や生活水準の大きな格差

- 国が貧しいのは、国民大多数の犠牲のもとで、私利のために社会を組織してきた少数の選良達により統治されてきたことが原因。Extractive institutions(収奪的制度)
- 豊かな国は、権力を独占する選良たちを打倒し、権利が幅広く分配された社会を国民が建設したから。政府は説明責任をはたし市民の要求に対応するし、大多数の国民が経済的機会を利用できる。Inclusive institutions(包摂的制度)
- すべての経済制度は、社会により制定されるが、北朝鮮の経済制度は1940年代に共産主義者により、ラテンアメリカ植民地ではスペインの征服者(conquistador)に押し付けられた。
- 韓国は極めて異なる政治制度と経済制度を採択し、異なる利害と目的を有するさまざまな国民が、社会構造を決定した。

- 政治というのは、社会が支配制度を選択する過程である。
- **包摂的制度**(inclusive institution)が国家の繁栄には好ましいのに、北朝鮮の選良たちのような人たちは、自分たちの利益を大幅に拡大する**収奪的制度**(extractive institution)を採用する。
- 制度に関する衝突があるときには、政治闘争における勝利者が追加的資源を獲得し、効果的な同盟関係を結ぶ。
- 誰が勝利者となるかは、社会における**政治権力の分配**に依存し、社会の政治制度が生ずる結果の主要決定要因となる。
- 政治制度は、社会で**誰が**権力を有し、いかなる**目的**にその権力を行使するかを決定する。権力が少数の選良に独占され、制限を受けない場合には、政治制度は絶対君主制度のようになる。
- 北朝鮮や植民地ラテンアメリカのような場合には、この権力を行使できる人々は、**社会一般の犠牲**のもとに自分たちを富ませ、自分たちの権力を拡大する経済制度を制定することができた。

- 対照的に、権力が社会に幅広く分配され制限を受けた制度は**多元的**である。単独の個人や狭い集団にではなく、政治権力は多元的な集団により保持される。
- **多元主義**と包摂的経済制度との関係は緊密である。しかし韓国と米国が包摂的経済制度を有するかの理解の鍵は、たんなる多元的政治制度のみならず、十分に**中央集権化**された強力な国家であるかどうかにある。
- **ソマリア**は、権力が幅広く分配され多元的ではあるが、社会は互いに対して深い敵愾心を抱く多くの部族に分裂しており、包摂的制度ではなく**無秩序状態**を生み出している。最小限の治安も経済活動も貿易も、基本的安全を市民の活動に対して提供することさえできない。
- **マックスウェーバーの国家の定義**は、社会における**正統な暴力の独占**であり、そのような独占と中央集権化がなければ、公共サービスの提供や経済活動の規制・奨励のみならず、治安さえも維持できない。
- 多元的な社会における、十分に中央集権化された包摂的制度が望ましい。
- **経済制度と政治制度**との間には、緊密な共同作用が存在する。権力が少数の選良に集中し、権力行使にはわずかの制約しかない場合には、しばしば選良たちにより社会の他の部分から資源を収奪できるように、経済制度は制定される。

- 収奪的政治制度は収奪的経済制度を伴い、前者は内在的に後者に依存し、両者はフィードバック関係にある。
- 他方、包摂的経済制度は、包摂的政治制度の礎の上に構築される。**経済的包摂的制度**は資源のより公平な配分を生み出し、**政治的包摂的制度**を支える。
- 包摂的経済制度が収奪的政治制度を支えることや、収奪的政治制度により支えられることはない。
- 収奪的政治制度は収奪的経済制度に変貌するか、収奪的経済制度の生み出す経済的活力が、収奪的政治制度を不安定化させ、包摂的政治制度の出現をもたらす。
- **制度の選択**が、国家が成功するか失敗するかの中心的要因となる。
- **コンゴ**は1960年にベルギーから独立したが、モブツ大統領のもとで継続的に低下し貧困にあえいできた。モブツが制定した高度に収奪的な経済制度のもとで、国民は貧困に喘ぎ、モブツを取り巻く選良達は信じられないくらいの富を享受した。

- 経済成長にはシュンペーターの言う**創造的破壊**(creative destruction)が必然的に伴い、創造的破壊に対する**支配者たちの恐怖心**が、包摂的経済制度や包摂的政治制度に抵抗する理由となる。
- 欧州の歴史にはこの例が多く、産業革命前夜には欧州の多くの国々は、貴族と世襲的選良に支配されていた。その主な所得源は土地所有と、国王が与えた独占や参入障壁から生じていた。
- **産業革命**は土地からの収益を奪い、労働者の賃金を引き上げ、産業化や商人による貿易独占利益の侵食により、貴族は経済的**敗北者**のみならず政治的敗北者となるので、彼らは産業革命に対する恐ろしい**反対勢力**となった。
- 機械化により職を失う職人も産業の拡大に反対し、機械の破壊に走った。しかし技術進歩に反対する人々を指す**ラッダイト**は、政治権力を有しなかったのてたいした反対勢力にはならなかった。
- イングランドでは貴族の反対は沈静化したが、オーストリアハンガリー帝国やロシアでは、国王や貴族の失うものが遥かに大きかったので、経済は停滞し西ヨーロッパ諸国の後塵を拝することになった。
- **経済成長**はより良い機械やより優秀で教育を受けた人々の問題ではなく、創造的破壊と関係する変容と不安定化を伴う過程であり、強力な集団が経済進歩と繁栄を妨げる。

ベネチアがなぜ博物館化したか

- 2004年度 ベネチア国際大学に客員教授。
- ベネチアは初期の政治的包摂性により支えられた、最も進歩した最も豊かなところだった。
- 810年に東ローマ帝国から独立したが、欧州経済はローマ帝国の滅亡による衰退から回復しつつあり、シャルルマーニュのような国王は、強力な中央集権国家を建設しつつあった。
- このことにより安定性、安全性の向上、**貿易の拡大**が促進され、ベニスには地中海の真ん中にある船乗りの国であり、東からは香料が流入し、ビザンチンでは財を生産し奴隷を供給した。
- 1世紀以上にわたる経済拡大の続いた1050年には人口は45,000に、1200年には70,000にさらに1330年には110,000となりパリの人口と同じくらいで、ロンドンの人口の3倍も大きかった。
- 経済的拡大の鍵となる要因は、極めて**包摂的な経済制度**を形成する一連の**契約上の革新**であった。

- 最も有名な制度はcommendaと呼ばれる初期形態の株式会社であり、貿易任務1回毎に結成された。Commendaには2組の共同出資者がいて、一組はベニスに残り、他の組の出資者は航海にでた。ベニスに残るパートナーは航海事業に投資し、航海に参加するパートナーは積荷と同行した。
- ベニスに残るパートナーの取り分がずっと多かったが、富を持たない若い起業家は貿易商品と一緒に移動する航海に加わり、社会的上昇移動の重要な経路となった。
- 航海から生ずる損失は投資額に比例して分担されたが、利益が生じたら利益は2種類のcommenda契約にしたがって分配された。
- 単独でベニスに残るパートナーが100%投資した場合には、そのパートナーが利益の75%を受け取った。契約が双務的な場合には投資額の67%と投資利益の50%を受け取った。
- Commendaは社会的上昇移動を促進する極めて強力な力となっていて、ベニスの選良の名前に新規参入者の割合が急速に増大した。

- 経済的包摂性と貿易による新選良の増大は、さらに政治制度を開放的にした。
- ベニスを統治したdoge**総督**は、総会General Assemblyで終身任期に選出された。**総会**は全市民から構成されるが、強力な家柄の選良達に支配され、総督の権限は政治制度の変化とともに次第に低下した。
- 1032年には**公爵会議**Ducal Councilが設置されたが、総督の権限が絶対的になることを**阻止**するのが役割だった。Checks and balances.
- この制度改革にはベニスの商業及び海軍力の大幅な拡大が伴い、1080年にはコンスタンティノープルにおける広範な貿易特権を与えられ、ベニス広場が建設された。**包摂的な経済制度と政治制度**が協調関係で発展した。
- 1171年の総督の殺害のあと、政治制度の改革が続く。**大審議会**Great Councilが創設され、究極的政治権力の源泉となった。

- 審議会は判事のような政府役職者からなり、貴族が支配的だったが、役職者に加えて毎年100名の**新会員**が指名委員会により指名されて就任した。
- 指名委員会の4人の委員は既存の審議会からくじで選出され、審議会は元老院Senateと40人審議会Council of Fortyを選出するが、さまざまな立法的小よび行政的小機能を果たした。
- 大審議会はまた**公爵会議**も選出するが、2名から6名に拡大された。大審議会はまた別の審議会を創設し、総督の指名を担当する。総会の承認は必要だが、1名の総督を指名するという**総督の選沢権**を大審議会に与えた。
- 新総督は公爵会議を制約する誓約の遵守を誓う
- 。このように徐々に**制約条件**は拡大し、その後の総督は治安判事に従い、公爵会議により承認された決定のみ実施した。公爵会議は総会のすべての決定に従うことを保証する役割を果たした。

- これらの政治改革はさらなる制度改革に導き、法律、独立した治安判事の創設、法廷、控訴裁判所を生み出し、私的契約、破産法等の**新経済制度**は新しい法律関係の仕事や新しいタイプの契約を生み出した。
- **金融革新**が急速に生まれ、現代銀行業が生まれた。完全に**包摂的な制度**への進展はとどまるところを知らなかった。
- しかし**緊張関係**が生じた。包摂的な制度に支えられた経済成長には**創造的破壊**が伴った。
- Commendaや類似の制度による起業家の若者の参入は、既存の選良たちの利益や経済的成功を侵害し、かれらの利益を削減するのみならず政治権力に対しても挑戦した。
- 大審議会に席を有する**既存の選良**たちには、これらの**新規の人々**に対して制度を閉鎖する誘惑が常につきまとった。

- 1286年に**新会員の指名**は40人審議会Council of Fortyの過半数の確認を条件とするように、規則を改正する提案がなされたが、40人審議会は選良家族により厳格に支配されていた。
- 新規指名に対する**拒否権**を選良家族に与える措置が取られ、父や祖父が審議会の会員であったならば、自動的に新会員の確認がなされることになる。
- さらに大審議会への指名は40人審議会、総督、公爵審議会により承認されねばならないように規則を改正した。
- 1297年には、過去4年間の間に大審議会の会員であったものは、自動的に指名と承認を得るようになった。
- 1298年には現行の大審議会の会員とその家族は確認も不要となり、大審議会は**外部者**に対して実質的に封印された。
- 最初の会員は**世襲的会員**となり、1315年には黄金書により封印は完結された。

- 既存の選良達は、新興商人を排除しようとしていた。これが収奪的制度化の第一歩であった。
- さらに1314年には、ベニス国家は貿易を独占しようとした。1324年以降は、民間で貿易に従事しようとする個人には高い税を課した。
- 遠方貿易は貴族の特権化し、ベニスの繁栄の終わりの始まりを形成した。
- ベニスは衰退し、1500年までには人口も15万人にまで縮小し、1650年と1800年の間に欧州諸国の人口が急膨張していた期間に、ベニスの人口は縮小した。
- 今日のベニスの経済は観光業であり、開拓的新貿易ルートの探索や経済制度の代わりに、ベニスはピザやアイスクリームやガラスを膨らます観光地となり、経済的発電所から博物館に転落した。

ローマ帝国の経験

- Edward Gibbon, The Decline and Fall of the Roman Empire
- ローマ帝国も初期には重要な制度革新があったが、次第に制度は収奪的なものに変化した。
- 共和制は510BCから49BCまで、帝政は49BCから476ADまで続いた。当時の最大の問題は土地の分配とローマの平民市民の権利であり、ローマは共和国で市民は、死に至るまでローマ共和国を守るという誓約をしていた。
- 共和国は、多くの包摂的要素を持つ政治制度を制定していた。1年任期で選出された治安判事が統治し、均衡と抑制(checks and balances)により、権力は幅広く分散され、一人への権力集中を阻止していた多元的要素を持つ制度であった。

- 平民は独自の議会を持ち、治安判事の決定に拒否権を行使し、**平民議会**を招集し、法律を発議できる**平民護民官**を選出した。
- 133BCにTiberius Cracchusは平民たちにより護民官に選出され、平民、とりわけ平民兵士によるストライキにより平民護民官の権力は生まれた。
- 地中海貿易や採掘産業もローマ共和国において繁栄し、経済成長も見られた。
- しかしローマの制度は、一部は包摂的であり一部は収奪的性格を持ち、**持続可能**ではなかった。
- ローマ市民は政治的及び経済的権利を持っていたが、**奴隸制**が広まっており極めて収奪的であり、選良である**元老院**階級が政治も経済も支配していた。
- 平民会議や護民官制度もあったが、実質的な権限は大地主から構成される元老院が握っていた。**元老院**は最初の王のロムルスが創設し100名の議員からなった。

- **土地の配分**はきわめて不平等であり、問題の根源であった。ローマの拡大に伴い巨大な富が流入したが、少数の元老院議員に分配され、**貧富の差**が拡大。
- 農園では戦争の捕虜の奴隷が働いてが、共和国軍は小地主階級の**市民兵**からなっており、長期にわたる戦役のあいだいに負債が重くなり、飢餓に見舞われた。
- 土地は大地主の元老院階級にわたり、ローマには土地を奪われた兵士が集まり、爆発点に近づいていた。
- 貴族に対して不公正に抗議する**反乱**が起こったが、権力は富裕者が握っていたから制度を改正しようという意図は持たなかった。
- 護民官のTiberius Gracchusは、イタリアの土地分配制度の改革に着手したが**迫害**にあい死亡し、Gaius Gracchusを含む他の改革者も同じ運命にあった。

- 91BCから87BCまでの社会戦争も含む**反乱**が起こったが、Sullaにより鎮圧され平民護民官の権限は縮小した。
- 平民はJulius Caesarを支持し、シーザーが49BCにルビコン川をわたったときにローマ帝国の政治制度の根幹は打倒された。44BCにシーザーは暗殺されたが、**共和制から帝政へ**の制度変更が、ローマ帝国衰退の源泉とった。
- 経済的成功の原因であった部分的包摂的政治制度が徐々に衰退し、経済的にも軍事的にも崩壊の瀬戸際にあった。
- **ローマの害悪**として、Marcus Aureliusの死のAD180から西ローマ帝国の滅亡のAD476の間に、皇帝に抗議する内戦や宮廷内反乱のなかった10年間はなかった。
- 皇帝の殆どは、自分の軍の篡奪者や自軍により**殺害**された。Flavius Aetiusは、イタリアを席卷するGoths やHunsのような蛮族の捕虜となった。Alaric(西ゴート族長)はローマ軍の将軍にも抜擢されたが、408年にはローマ軍と戦った。
- ローマ帝国の**衰亡の原因**は、Augustusの帝政に始まった。軍隊の脱退を禁止することにより、平民のローマ人の政治的代表を保証する中核制度が消滅した。

- Tiberius皇帝は平民会議を廃止し、その権限を元老院に移した。平民はサーカスと剣闘士の戦いと施しにより、統治された。貴族の権限を拡大し、市民の兵士の代わりに職業軍人を養成し、それらが権限を持ち皇帝の選択にも関与した。
- 内戦が頻繁に起こり、所有権がきわめて不安定になった。Trojan、Hadrian、Marcus Aureliusのような名君により衰退を遅らせたが、根本的な制度問題は解決されなかった。
- 政治的不安定性の増加とともに、経済制度も収奪的性格のものに変貌した。市民の間にも格差が生じ、法の前の平等の原則も崩壊した。
- 共和制時代には政治的、経済的決定に対してある程度の権限を行使できたのに、市民の役割も変わってしまった。奴隷制は維持され、農業従事者も土地に縛られる半農奴の地位に低下。
- 内戦が頻繁に起こり、所有権がきわめて不安定になった。Trojan、Hadrian、Marcus Aureliusのような名君により衰退を遅らせたが、根本的な制度問題は解決されなかった。

- **政治的不安定性**の増加とともに、経済制度も収奪的性格のものに変えた。市民の間にも**格差**が生じ、法の前の平等の原則も崩壊した。
- 共和制時代には政治的、経済的決定に対してある程度の権限を行使できたのに、市民の役割も変わってしまった。奴隷制は維持され、農業従事者も土地に縛られる半農奴の地位に低下。
- 成長に**技術革新**や**創造的破壊**が伴わなかった。
- ローマ帝国時代を通して技術は停滞し、創造的破壊を恐れて、政府が技術発展に興味を示さなくなった。
- ローマ皇帝は、共和制時代より**変化を阻止**する遥かに大きな権力を有した。
- 革新は問題に新しい解決策を発展させる新しい着想を有する新しい人々から生ずるが、ローマでは革新の便益を享受するのは支配者であり、生産に携わる**奴隷**や**半農奴**ではなかった。

ソ連の経験

- **収奪的制度**は、ある程度の中央集権的政治制度、法の支配、法制度などの整備を必要とするが、支配者に便益を与える成長を達成することはできる。
- しかし、**持続的成長**はできず、最終的に崩壊に至る。
- 1917年に**ロシア革命**が起こり、1931年には革命計画を持つ政府が貧困、独裁、戦争の根本原因を撲滅しようと、よく訓練された少数の選良による独裁制による経済力の科学的再編成を達成しようとした。
- まず**経済的民主主義**を、最後に**政治的民主主義**を達成する計画だった。
- 1980年代までは、多くの西欧諸国は、ソ連に**未来の姿**を見ていた。1924年Leninが死亡し、1927年までにはStalinが権力を掌握し、反对者を粛清し急速な工業化を図った。

- 国家計画委員会、Gosplanを1921年に設置され、1928年から1933年までの最初の5か年計画を実施した。
- 経済成長の方法は単純であり、政府の命令により農業に高い税を課し工業化に必要な資源を調達した。
- 近代的な税制はなかったから、農業を集団化し私的財産を廃止し、農村地域の国民を共産党が管理する巨大な集団農場に閉じ込めた。これによりStalinは容易に農業生産物を取得し新規工場を建設し、そこで働く人々に食料を与えた。
- 農民たちに対するその結果は悲惨なものだった。集団農場は人々の勤労意欲を引き出す誘引を全く欠いていた。生産物は搾取され、食べるにも不十分であり、600万の餓死者がでた。また数十万の人々が、集団化の過程でシベリヤ送りとなった。
- 新工場も集団農場も、ソ連の資源を効率的に使用するものではなかった。直ちに経済的崩壊が生じなくても、経済的大失敗か停滞をもたらす手法であった。

- 市場ではなく少数の選良が資源を統制するときに、適切な**誘引**も生まれなければ、人々の能力や熟練を**効率的**に配分する方法も生まれない。
- 重工業部門のような特定部門の労働と資本の生産性が高他部門より高い場合には、**国の命令**による収奪的制度的もとでも成長を達成できる。
- ソ連の技術水準は欧米より低かったから、**工業部門に資源を配分**することにより成長を達成できた。
- 1928年前には農村部のロシア人は未発達であり生産性を引き上げようとする誘引もなく、未実現の巨大な**経済的潜在性**が眠っていたから、農業から工業へ資源を再配分することによりこの潜在性を開放するのが、Stalinによる**工業化の残酷な方法**だった。
- 1928年から1960年まで、国民所得は年率6%で伸び、歴史上もっとも経済成長が速かった。

- Khrushchev首相は「我々は西側を葬ってやる」と1956年に宣言した。
- SamuelsonのEconomicsの教科書でも「ソ連流の経済は資本主義経済よりも経済成長が高く、完全雇用、物価安定、ひとびとの愛他的動機を醸成する。」と結論した。
- 1961年版ではソ連経済は1984年までに、あるいは1997年までに米国経済を追い抜くと予言した。1980年版では2002年か2012年までとしたが、ソ連経済が米国経済を追い抜くという結論は変わらなかった。
- Stalinやその他の指導者は、ソ連経済の急速な成長を達成したが、成長は持続可能ではなく、1970年代には経済成長は停止した。
- 収奪的制度は誘引の欠如と選良たちの抵抗という2つの理由により、持続的成長を維持できない。

- 一度すべての資源が工業部門に配分されると、命令により達成できる**成長の余地**はない。
- ある程度の**革新**を達成できた分野は、宇宙開発と軍事技術面のみであり、1957年には米国に先駆け宇宙衛星スプートニクを打ち上げ、その後は同年スプートニク2号では宇宙犬Leikaを、1961年には最初の宇宙飛行士Yuri Gagarinの宇宙打ち上げに成功した。
- **農民**たちに対するその結果は悲惨なものだった。集団農場は人々の**勤労意欲**を引き出す誘引を全く欠いていた。
- 生産物は搾取され、食べるにも不十分であり、600万の**餓死者**がでた。また数十万の人々が、集団化の過程でシベリヤ送りとなった。
- 新工場も集団農場も、ソ連の資源を効率的に使用するものではなかった。直ちに経済的崩壊が生じなくても、**経済的大失敗**か**停滞**をもたらす手法であった。

- 合理的投資と革新のための長期的計画のはずであったが、Gosplanは頻繁に改正され無視され、Stalinと他の政治局員による**命令**で執行された。
- Stalinは自分に忠実な人々に報酬を最大化することを考え、GosplanはStalinの決定に情報を提供するのみで決定を極力回避した。
- 1931年には、金銭的誘引なしに働く「**社会主義者の男女**」を創出する考えを放棄した。
- ソ連では**勤労意欲**を高める誘引が欠如していることをStalinは理解しており、1931年の演説で平等主義者を批判し、異なる職種に対する異なる賃金水準を容認するのみか、**賞与制度**を導入し、産出量が目標を超えた場合に支払われたが、賞与の支払制度が技術変化をもたらすあらゆる**誘引の減殺効果**を生み出した。
- 技術革新は既存の生産から資源を奪い、歳出目標を達成し賞与を得る機会を奪う。**生産目標**は過去の生産水準に関連付けられており、生産量を拡大しないという強い誘引が生まれた。**生産不足**が目標を達成し賞与を得る最良の方法だった。

- **中央計画**は市場の見える手に代替することはできなかった。産出量でなく利潤を基準に報奨する制度においても、利潤を計算するための価格制度は新しい革新や技術になんらの関連がなかった。
- 市場経済と異なり**価格**は政府が設定し、価値との関連は低かった。1946年に明確な革新報酬制度を導入し、1956年には賞与は革新の生産性に比例的であるべきと規定したが、生産性は既存の価格制度を前提としていたので、たいした誘引効果をもたらさなかった。
- 制度の**内在的問題**としては、政治的権威と権力が**共産党**にある限り、基本的な誘引を変えることは不可能であった。
- 共産党は最初から、飴とともに大きい**鞭**も使用してきた。労働者の犯罪行為に関する多くの法律が制定され、欠勤などは厳しく罰せられ、1940年と1955年の間に、成人人口の約3分の1が有罪とされた。
- 1500万人が刑務所に送られ25万人が銃殺された。250万人は**シベリア送り**されたが、この種の強制は現代産業経済における誘引の欠如を補完できない。

- 真に効果的な誘引が中央計画経済に導入できないのは、報奨制度の設計における技術的間違いによるものではなく、**収奪的成長**が達成された方法全体に内在的なものであった。
- いくらかの経済問題は政府の命令により解決されるが、持続的経済成長に要請される**個人の能力や着想**を利用が、ソ連型の経済制度では不可能であった。
- ソ連は収奪的経済制度を放棄せねばならないが、そうすると**政治的権力**を危機にさらす。
- 1987年に**Gorbachev**が収奪的経済制度を放棄しようとしたときに、共産党の権力と、ソ連も崩壊した。
- ソ連はBolsheviksが強力な**中央集権的国家**を建設し、資源を工業に配分することができたから高い経済成長を達成したが、他のすべての収奪的制度と同様に、**技術変化**をもたらず成長は持続可能ではなく、鈍化し最終的には崩壊した。
- 歴史上ほとんどの社会は、収奪的制度により支配され**限定的成長**を達成する秩序を生み出してきた。

- 歴史の主要な転換点は、大きな**制度上の革新**の特徴を持つ。
- 国家の中央集権化を達成し**収奪的制度**のもとでの成長を実現したが、収奪的制度のもとでの成長は、包摂的制度のもとでの成長とは大きく異なる。
- 最も重要な点はそれが**持続可能**ではないことであり、その性格から収奪的制度は**創造的破壊**を生み出さず、最善の場合でも限定的な技術進歩のみを生み出す。
- ソ連の制度は、最終的には農業から工業までどの部門でも技術革新を生み出さず、1970年代には成長力が消滅した。
- 収奪的制度は選良たちに多大な便益を与えるから、既存の選良に代替して支配しようという強い誘引が人々の間に広まり、激しい**内部抗争**と不安定性が生まれる。
- 政治的中央集権化の動きは逆転し、**法と秩序の崩壊**による混乱状態に陥る。

中国の場合

- 19世紀の絶対主義は中国でも同じで、産業化を阻んだ。
- 960年から1279年までの**宋**の時代には、中国に多くの**技術革新**が起こった。中国人は時計、羅針盤、火薬、紙、紙幣、磁器、鋳鉄を作るための溶鉱炉を発明。
- 能力主義に基づいて採用された公務員により、**中央集権化**された政府を有していた。
- 宋王朝も収奪的制度を採用。社会には、君主以外の勢力を代表する、議会のような組織はない。商人の立場はいつも不安定。
- 宋の偉大な発明も、市場の誘因で促進されることはなく、**君主の保護か命令**のもとで導入された。これらの殆どは商業化されず、国家の締付けは、明王朝や清王朝のもとで強化された。
- 収奪的制度を支配する支配者達は、変化を嫌い安定性を好み、**創造的破壊**を恐れた。

- 国内取引には民間商人が携わったが、**海外貿易**は**国家が独占**した。
- 1368年に**明**が建国されると朱元璋皇帝は、海外貿易は政治的及び社会的に不安定化要因となると考えて、**国家により組織され、商業活動ではなく、貢物の贈与に携わる場合にのみ認可した。**
- 貢物贈与から**商業**に拡大した、多くの商人が処刑された。民間人の海外取引への従事も、海外への渡航も禁止した。
- 1402年永楽帝が皇帝に即位し、大規模な政府の後援する**外国貿易**を始めた。
- **鄭和**提督は6回にわたる東南アジア、南アジア、アラビヤ半島、アフリカへの巨大な使節団を率いた。第一回船団には27,800名と62隻の巨大な宝船と190の小型船を伴った。
- 宣徳帝は1433年に第7回目の航海を許可したが、その後はすべての**海外貿易が禁止**された。
- 1436年には、海外渡航用の大型の船舶の建設も禁止された。国際貿易とアメリカの発見がイギリスの制度を根本的に変貌させた頃に、中国はこの決定的な分岐点に背をむけて**内向き**となった。

- 1644年清王朝に取って代わられると、激しい政治的不安定化が始まった。清王朝は、民間財産を大量に収用をした。
- 康熙帝は1661年にベトナムから浙江までの沿岸地域からの内陸部への移住を要請。沿岸地域は海外貿易を阻止するために巡視された。
- 明や清の国際貿易への反対政策の根拠は、創造的破壊に対する恐怖心。指導者の主要関心事は政治的安定性であり、大西洋への拡張期のイギリスの商人のように、商人が豊かになり果敢になることを恐れた。
- 明や清は、国内経済に高い税を課した。しかし革新を助長することではなく、商業や産業の繁栄を犠牲にして政治的安定性を選択した。
- 経済は19世紀と20世紀初期には経済は停滞を続け、毛沢東が1949年に共産党政権を打ち立てたときには中国は最貧国の一つだった。

- **政治的中央集権化**は収奪的制度のもとでの経済成長の鍵であり、それなしには法と秩序を維持し財産と資産を守ることはできない。
- サハラ以南アフリカのように政治的中央集権化を達成していないところでは、低い経済成長の達成さえも困難。
- 収奪的制度のもとである程度の成長を達成できても、**持続可能な成長**は維持できない。
- ましてや**創造的破壊**を伴う成長は不可能。政治的にも経済的にも**収奪的な制度**の場合には、創造的破壊や技術的变化を引き起こす誘因が存在しない。
- しばらくは政府は命令により、資源や人々を配分することにより成長を達成できても、この過程は内在的に限定される。
- 限界に達すると、1970年代のソ連の場合のように成長は止まる。ソ連が高度成長を達成しているときにも、経済のほとんどの分野で技術変化は生じなかった。
- 資源を集中的に投入することにより軍事技術、宇宙開発、核競争において短期的に米国より優位にはたつたとしても、創造的破壊と広範囲の技術革新のない成長は持続可能ではなく**突然の停止**を迎えた。

- 収奪的政治制度のもとでの経済成長の論理は、本来的に脆弱であり、収奪的制度自体が生み出す**内部闘争**により崩壊し、容易に破壊される。
- 収奪的政治及び経済制度は富と権力の集中を**狭い選良集団**にもたすから、他の集団は既存の選良集団に取って代わり、集中した富と権力を享受しようとし、**内部抗争**を生みやすい構造になっている。
- 古代ローマ帝国やマヤ諸都市の場合のように、強力な国家を支配しようという内部抗争の傾向は内在しており、時折それが強化され内戦となり、これらの体制の**全面的崩壊**をもたらした。
- 国家の権力の**中央集権化**も、それによりもたらされる**法と秩序**も崩壊する。
- 韓国のように政治的には収奪的制度でも経済的には包摂的制度の国でも、経済制度も次第に**収奪的性格**に変貌する危険がある。

- **政治権力の保持者**は経済進歩を推進するよりも、競争を制限し自らのパイの分け前を拡大するように権力を行使することが自分の利益になると思い始め、経済的繁栄の土台を侵食する。
- 1949年**中華人民共和国**の建国。1976年の死亡まで**毛沢東**が独裁。
- 初期の経済成長は**農業部門**の徹底的な市場改革により急上昇したが、**工業部門**は現在に至っても、国家と共産党がどの部門やどの企業が追加的資本を得て拡大するかを決定する。

- 最盛期のソ連のように現在の中国は成長を続けているが、収奪的制度のもとでの成長であり、包摂的制度への移行の兆候は殆ど見られない。
- 権威主義的収奪的政治制度に**収奪的経済制度**が導入され、直ちに土地を国有化しすべての所有権を廃止した。
- 国内査証を発行し国内旅行を禁止。企業もすべて**国有化**。5か年計画を導入し経済成長を促進。1958年の**大躍進運動**では鉄の生産量を増やすために鍋、釜、農機具を溶かして対応し、その結果2000万から4000万の餓死者がでた。
- 文化大革命により、**ブルジョア的発想**の指導者を粛清。華国鋒、胡喬木、趙紫陽

- 1961年鄧小平のいい猫発言。
- 鄧小平は1967年に投獄され、1969年には江西省に流刑。1974年復帰し、周恩来は鄧小平を副主席にするように毛沢東を説得。
- 1975年新路線を提唱する3つの党文書を指揮したが、高等教育の再活性化、工業と農業に対する物質的誘因の復活、党からの左派の除去を要請。
- 文化大革命を指示する四人組の除去を試みるが、再び地位を剥奪され解任された。
- 毛沢東の死とともに力の真空が生まれ、異なる未来像と心情を有する権力者間の闘争。
- 華国鋒は、毛沢東の思想への均衡の取れた復帰を求める。
- 鄧小平は共産党政権の廃止し包摂的な市場で代替することは願わず、かれらの政治支配を危機にさらすことなく、かなりの経済成長が達成できると考えた。

- 毛沢東の文化大革命や教えを拒絶し、より**包摂的な経済制度**に移行することによりかなりの経済成長を達成できる。
- **市場の役割と誘因**を高める経済を改革し、社会と行政における党の役割を減じ、私的所有権の範囲の拡大を意図。
- また**外国投資と外国貿易**に対して経済を開放し、国際経済との統合化を積極的に推進。
- 華国鋒は四人組を排除し、1977年に鄧小平を復帰させた。
- 鄧小平は文化大革命の公的批判を奨励したが、華国鋒にはできなかった。1978年には鄧小平は華国鋒の毛沢東の教えの堅持策を批判。
- 正しい道は事実から真実を求めること。鄧小平の支持者の胡喬木が**経済改革の基本原則**を提示。

- **企業**は、生産決断に関して独創力と権威を持つべき。**価格**は政府が設定するのではなく、需要と供給を一致させるために利用されるべき。経済に対する**国家の規制**は軽減すべき。
- 1978年華国鋒の反対にかかわらず党大会で採択され、その後は党の焦点は、階級闘争ではなく、**経済の近代化**に絞られた。
- 実験として**生産責任制**を導入し、集団農場制度を押し戻し、農業に**誘因**を導入した。東欧諸国における私有地農場の豊作。
- 1980年には華国鋒は首相の座を降り、趙紫陽が就任。1985年までには鄧小平は党の完全な改造を完了。
- 1983年までには、生産責任制を全面的に適用。1985年には穀物の国家による強制的買付制度は廃止され、より**自発的契約**によるものに代替。

- 都市経済では国有企業の自主性が拡大され、**外国投資**を惹きつける能力のある14の「**開放都市**」が指定された。
- **農業**部門に導入された誘因制度は、劇的に生産性を引き上げ、1984年の穀物生産高は1978年より3分の1も上昇した。
- 新会社が参入し国営企業と**競争**することを許されると、**経済的誘因**は工業部門、とりわけ国営企業にも導入された。
- 農業と工業における市場誘因は、**収奪的経済制度**からより**包摂的経済制度**へと変化させ、外国の投資や技術が続き急速な経済成長が軌道に乗った。
- 中国の経済制度の変化は徹底的であった。収奪的制度を包摂的制度に代替することは可能だが、自動的でも容易でもない。ある種の幸運も必要。歴史はいつも予期せぬやり方で展開される。

- Dai Guofangは1990年代からの都市ブームと建設の急増を予測し、国営企業と比較すると遥かに低価格の生産者として、**鉄鋼会社**が大きな市場を占拠できると予想。
- 地方の政治指導者と協力し、真の製鉄会社の建設を企画し、2003年から開始したが、2004年には北京の共産党から停止を命じられ、理由のわからない理由で**逮捕**を受けた。
- 5年間刑務所での収監と自宅勾留を続け、2009年に軽犯罪の有罪判決を受ける。
- **本当の犯罪**は国営企業と競争する巨大プロジェクトを**共産党幹部の承認**を受けずに始めたこと。

- 共産党幹部の見解は、民間企業を「**籠の中の鳥**」として扱うこと。中国経済は鳥であり、籠は共産党の統制。
- 籠は経済をより健全で活動的に維持するために拡大する必要があるが、鳥が飛び去らないように錠を開けたり取り払ってはならない。
- **江沢民**は1989年書記長に就任直後に「誤魔化し、横領し、買収し、脱税する自営の商人や行商人」と**起業家**を特徴づけて、疑念の目で見ていた。
- 1990年代を通して、外国投資は中国に流れ込み、国営企業は拡大の奨励を受けていたのに、民間の起業家は**疑念**の目で見られ、多くの起業家は、財産を収用され投獄された。

- 江沢民の**起業家観**は希薄化しているが、いぜんとして中国で広く拡散している。
- 中国人経済学者によると、大國営企業は大規模プロジェクトに関係できるが、**民間企業**が関わるとあらゆる分野から問題が舞い込むというもの。
- 今日いくつかの民間大企業が活動しているが、経済の多くの要素はいまだに**党の命令**と保護のもとに置かれている。
- 最大の国営企業の頭取の机の上には**赤い電話**が置かれており、電話の鳴るときには、当該企業が何をすべきかに関する党の命令が伝えられる。
- 中国が包摂的制度に向けて大きな進歩をしており、過去30年間にわたる**目を見張る成長を達成**したことは否定できない。
- ほとんどの起業家は、地方の幹部や北京の共産党幹部の支持を得ることにより、ある程度の**保障**を確保している。

- ほとんどの**国営企業**は利潤を追求し、国際市場で競争しており、毛沢東時代の中国からの劇的変化。
- 中国が成長を始めたのは、ほとんどの収奪的制度を放棄し、包摂的経済制度にむけた鄧小平の抜本的改革のため。
- その後も、遅い速度ながら**包摂的制度**への経路を辿っているから、成長は継続している。
- 中国は巨大な安い労働力の供給や外国市場、資本、技術の利用という**有利な条件**に恵まれている。
- 中国の制度が30年前と比べると遥かに包摂的制度になってはいるものの、中国の経験は、**収奪的政治的制度のもとでの成長**の例。
- 革新と技術に対する最近の奨励はあるが、中国の成長は**既存の技術と急速な投資**によるものであり、創造的破壊によるものではない。

- 中国では**財産権**が、完全には保証されていない。
- ときおり起業家財産が収用され、労働の移動性は厳しく統制され、自分の好むように自分の労働を売る権利という、最も**基本的な人権**の保障がきわめて不完全。
- 経済制度がいまだに包摂的なものから程遠いのは、地方の党幹部か北京の**共産党幹部**の支持なしには、起業家はいかなる活動も始められないことから明らか。
- **企業と党**との結びつきは、両者にとって利益になることから生ずる。党の支持を得た企業は、好条件の契約を取り付け、一般人を追い立てて土地を収用し、法規制を犯しても罰せられない

- かなりの差異も存在するが、中国の共産党の全面的支配と収奪的
制度は、1950年代と1960年代のソ連を想起させる。
- **ソ連**は、収奪的経済制度と収奪的政治制度のもとで成長を達成した。
中央集権化された**命令制度**のもとで強制的に資源を工業部門、とり
わけ軍事産業と宇宙産業に配分した。
- また遅れた分を追いつく余地が大きかった。創造的破壊が必要でな
いときには、収奪的制度のもとでの成長は容易。
- ソ連ほどではないが、中国でも**政治制度**はいまだに**収奪的**であり、
共産党が全能でありすべての国家官僚制度、軍、メディア、経済の
大きな部分を統制している。
- 中国人には、**政治的自由**は少ないし政治過程への参加も少ない。

- 中国の成長が民主主義と多元主義の向上をもたらし、1989年の天安門でのデモが、開放と共産党政権の崩壊に導くと多くの人々が信じていた。
- 学生を支持した趙紫陽は肅清され、党は市民の自由と報道の自由をより激しく締め付け、中国の政治制度はより収奪的になった。
- 趙紫陽は15年以上にわたり自宅監禁され、天安門デモの支持も含めた、公的活動の記録は抹殺された。
- 党のインターネットを含むメディアに対する統制は、前例を見ないほど。ノーベル平和賞受賞者の劉曉波は、いまだに刑務所に収監されて活動を阻止されている。
- 党の幹部や親族などのスキャンダルなどは、外国のメディアも含めてWeb上から削除される。
- 党による経済制度に対する統制のゆえに、創造的破壊は著しく制限されており、政治制度の抜本的改革が達成されるまで継続する。

- 中国経済は先進国より大幅に遅れており、追いつく余地が多かった。
- 中国経済はソ連経済のように軍事や重工業のみでなく、もっと**他分野**に分散しており、起業家たちもかなりの**創意**を示した。それでも収奪的政治制度が包摂的制度に変貌しない限りは**力尽きる**。
- 中国の経験は、中国経済の将来の成長と権威主義的成長の望ましさと、生存能力に関する興味ふかい疑問を提起する。
- **権威主義的成長**は、市場と貿易の自由化と制度解放区の必要性を強調するワシントン合意とは異なり、経済成長を**急発進**させる代案として開発途上国の間で人気があった。
- 財政規律の回復、税制改革、価格・貿易・金利の自由化、規制緩和・民営化の推進などを柱とする、市場原理主義・新自由主義的な政策パッケージである**ワシントン合意**(開発途上国に対する政策に関する合意)に対する反発というよりも、

- 支配者達、とりわけ収奪的制度を統括する支配者に対するその最大の魅力は、**権力の掌握を維持し強化**する点で、かれらに無制限の自由を与え、彼らによる搾取を正統化することにある。
- 中国経済の場合には追いつき過程、外国の技術の輸入、低段階の製造品の輸出による成長は、まだある程度継続するが、この過程は中国が**中所得の生活水準**を達成した時点で終了する。
- 可能性の高いシナリオは、**中国共産党**と強力な経済選良達が、あと数十年権力の強力な掌握を継続すること。
- しかしこの場合には、必要な創造的破壊も**真の革新**も生まれない。
- ある程度の権力の集中化を達成した諸国にとって、収奪的制度のもとでのこの種の成長は可能であり、最もあり得るシナリオであるが、過去の多くの例が示すように**持続可能**ではない。

- 中国経済の驚異的成長は霧散する。
- しかし中国の収奪的制度が、より**包摂的制度への移行**が起こると期待する理由は殆ど無い。またその移行は自動的でも苦痛を伴わない過程でもない。
- 中国共産党内部にも、将来の危険を認識し政治改革の考えを披瀝し声を上げている。温家宝首相は**政治改革**がなされなければ経済成長は制限されると警告。
- 中国は収奪的制度のおかげではなく、**収奪的制度にもかかわらず**過去30年間は成功を収めてきた。
- しかし包摂的制度への移行は、高度に権威主義的で収奪的政治制度の存在のゆえにますます困難になってきている。

- 中国の例から引き出せる重要な結論。
- 1) 中国における権威主義的で収奪的制度のもとでの成長はしばらく継続するが、真に包摂的経済制度と創造的破壊に支えられた**持続的成長**には至らない。
- 2) 近代化理論の提唱者の言うようには、権威主義的成長が包摂的政治制度へ導くと期待できない。中国やロシアは政治制度をより包摂的なものに改革する前に、選良たちの間からこのような改革の願望が生ずるか、収奪的制度に反対する勢力がその改革を矯正する以前に、**収奪的成長の限界**に到達する。
- 3) **権威主義的政府**は長期的に見ると望ましくもないし発展能力もない。一時的に政治的および経済的支配選良の利益に叶うとしても、国際社会はラテンアメリカ、アジア、サハラ以南諸国の鑄型として支持すべきではない。

北朝鮮と韓国

- 1945年第二次大戦が終了し、朝鮮半島は38度線で分断。北はソ連、南は米国の統治下に置かれた。
- 1950年6月冷戦下の不安定な平和は打ち破られ、朝鮮戦争が勃発。当初は北朝鮮が優先で韓国の首都ソウルを占領し、半島の南端まで押し込んだが、韓国の反撃が始まった。
- 1945年までは北朝鮮も韓国も同じ生活水準であったが、その後異なる政府による統治を受ける。北朝鮮の生活水準はサハラ以南のアフリカ諸国の水準であり、韓国の平均生活水準の10分の1。
- 北朝鮮は電力不足のため夜は真っ暗だが、韓国は光で輝いている。韓国は米国で教育を受けた李承晩大統領が統治し、その後は朴正熙が権威主義的大統領として統治。
- 二人の大統領は、私有財産を認める市場経済を推進した。1961年以降、朴正熙大統領は、信用や補助金を成功する企業に投入し、急速な経済成長を達成した。

- **北朝鮮**はこれとは異なり、金日成は抗日戦の指導者であり、1947年までには独裁者の地位を確立し、ソ連の援助を得て**中央計画経済**を採用。
- 私有財産は非合法化され、**市場**は禁止された。金日成、後にその後継者を取り巻くほんの少数の支配選良を除いては、市場においてのみならずすべての分野で自由は縮小された。
- 南北朝鮮の経済的富は大きく乖離する。金日成の**指令経済**と主体思想は北朝鮮にとって大災難となった。
- 北朝鮮では工業生産が**離陸**しなかったのみか、農業生産性は崩壊し飢餓が頻繁に起こった。
- 私有財産はないので、人々は投資することも、全力で生産性を高めるところか、維持する努力さえすることもなかった。
- 息をつまらせる**抑圧的な体制**は、革新や新技術の導入に有害であるが、金日成とその一派は制度の改革、私有財産、市場、私的契約、経済制度や政治制度を変革しようという気はなかった。

- **北朝鮮**の若者は貧困の中で生育し、創業心、創造性、熟練労働に必要な教育も受けていない。教育を受けた内容は、体制を正統化する宣伝教育であり、書物も少なくコンピュータなどはない。
- 卒業後は10年間もの兵役につく。**私有財産**の所有も事業の**創業**も豊かになることも、不可能であることを知っている。
- **市場**の利用は合法的には不可能であり、市場で自分の熟練を適用することも自分のほしい財サービスを手に入れることもできない。いかなる人権を有しているのさえわからない。
- 文化、地理、無知のいずれも、1990年代に明らかになった10倍の生活水準の**格差**を説明でいない。諸国は異なる制度、経済の運営方法、人々に動機づけする**誘因**において異なる。
- **韓国**では経済制度が**投資と貿易**を奨励した。韓国の政治家は教育に投資し、識字率と学校教育を引き上げた。

- 韓国の企業は教育水準の上昇を利用し、投資、工業化、貿易、技術移転を促進する政策を採用した。韓国は急速に「奇跡経済」の一つとなった。
- 韓国では良い教育を受け、選択した職業において努力し卓越する誘因を与えられている。
- 韓国は市場経済であり、私有財産を基礎に築かれている。若者たちは起業家または労働者として成功すれば、いつか投資と努力の成果である、高い生活水準を享受できることを知っている。
- 韓国では国家が経済活動を支援するから、起業家は銀行や金融市場から借り入れ、外国企業は韓国企業と共同事業を持ち、個人は住宅ローンで持ち家を購入することができる。
- どんな事業でも自由に創業できるし、労働者を採用でき、製品を販売でき、好きなように所得を消費できる。北朝鮮では闇市場でしかできない。

- **包摂的制度**とはそれぞれの能力や熟練を最もよく活用し、個人の最良の選択を可能とする経済活動への、大多数の国民の参加を、容認し奨励する制度である。
- 包摂的制度の条件としては、私有財産の保障、公平な法制度、人々が交換し契約を結ぶための公平な競争の場の整備の特徴を満たさねばならない。
- また、新規事業の参入の許容と、人々の職業選択の自由が必要条件である。**私的所有権の保障**は、その補償がある場合にのみ、所有者は投資し生産性の引き上げをしようとするから、中心的重要性を有する。

- 産出物が盗まれたり収用されたり、全部税金で奪われると予想するビジネスマンは、勤労意欲をもたないし、ましてや投資したり革新をもたらず**誘因**をもたない。このような権利が社会の国民の多数に対して保障されねばならない。
- 2009年北朝鮮は**通貨改革**を実施。インフレ対策として旧通貨を二桁分のゼロをとって新通貨とした。
- フランスの場合には42年間にわたる期間をかけたのに、北朝鮮の国民は、1週間以内に旧通貨を新通貨に交換するよう指示される。
- さらに100,000ウォン以上の交換は認められず、一撃で北朝鮮政府は市民の**私有財産**の殆どを消滅させた。
- 北朝鮮は私有財産と市場を認めないが、闇市場までは取締不可能であり、**闇市場**では現金が使用される。通貨改革は闇市場を利用する人々を罰するために、さらには彼らが豊かになり政権を脅かすことがないように導入された。

- 彼らを**貧困状態**に置くほうが安全。銀行が発達していないから人々は現金で貯蓄しており、通貨改革は国民の貯蓄を収奪した。
- 北朝鮮の指導者は市場を悪としているのに、市場が供給するものを愛好している。
- 西欧諸国の**贅沢品**が金一族や共産党幹部により愛用されており、金正日の年間コニャック代は\$800,000に上った。
- 収奪的政治制度は収奪的経済制度を生み出し、富と権力を民から選良たちに移す。

英国の場合

- 14世紀のはじめの欧州は、**封建制度**のもとにあり、ローマ帝国滅亡後の最初の制度であった。国王を頂点として領主がその下に、底辺には小作人がいた社会階層だった。
- 国王が土地を所有し、軍事サービスの報酬として土地を諸侯に提供した。諸侯は**小作人**に無償の労働と税や科料の支払いの報酬として土地を提供した。土地に拘束され領主の許可なく他地域に移住の自由のない隷属的な地位に落ちた
- 小作人は**農奴**と呼ばれた。制度は高度に**収奪的性格**のものであり、富は多くの小作人から少数の領主に流れた。
- 14世紀には**黒死病**の疫病が欧州を襲い、封建制度の土台を揺るがした。ロミオとジュリエット（Julietの死が仮死であるという知らせがRomeoに届かなかった。）

- **労働不足**により、小作人は領主に対する強制的労働と多くの義務からの開放を要求した。賃金は大幅に上昇し、政府は疫病前の水準に戻そうとしたが、成功しなかった。
- 1381年には、**ワット・タイラーの乱**が起こった。反乱は鎮圧され、ワット・タイラーは処刑されたが、その後政府は法律による賃金規制を断念した。
- 封建的労働サービスは衰退し、**包摂的制度**がイングランドで出現した。
- 状況は**東欧**でも**中欧**でも同じで、その後も労働者の自由は以前同様に制限されていた。1346年には**東西の差異**は殆どなかったのに、1600年頃までには差異が明確になってきた。
- 当初は小さな差異であったのに、**制度的乖離**が拡大していった。
- **黒死病**は歴史上の転機に現れる、社会の既存の政治的及び経済的均衡を**攪乱**する大きな要素の典型的例であり、国家の発展軌道における急展開の原因となる諸刃の刃。

- 一方では既存の収奪的制度を破壊し、より包摂的制度の出現をもたらす。歴史における**決定的転機**が、いかに経済制度と政治制度の経路を形成するかを理解することにより、貧困と繁栄の差異の起源をより完全に理解できる。
- より包摂的制度への移行のできた国と、できなかった国との違いも理解できる。
- 17世紀に持続的経済成長の突破口を作った点で、イングランドは**特異な国**。
- 以前よりも遥かに包摂的な、経済的制度と政治的制度の組み合わせの導入に先立って、**政治革命**があった。
- これらの制度は経済的誘因や繁栄に対してのみならず、誰が**繁栄の利益**を享受するかに対して大きな影響があった。
- それらの制度は同意に基づくというよりは、他者の権威と争い、自分たちの利益に叶う制度を構築しようとして、権力を求める諸集団間の**激しい競争**の結果であった。

- 16世紀と17世紀の制度的闘争の結果は、1642年と1651年の内戦ととりわけ1688年の名誉革命に現れた。
- **名誉革命**は国王と行政府の権限を制限し、経済制度を設定する権限を議会に付与した。
- 同時に**政治制度**を社会の幅広い階層に開放し、国家の機能のあり方に対するかなりの影響力を行使した。
- 17世紀初頭には奴隷制度も農奴制のような中世の封建制度のような**厳しい経済制約**も、イングランドには存在しなかった。

- しかし人々が従事できる経済活動に**制約**も存在し、国内経済も国際経済も**独占**により阻止されていた。
- 国家は恣意的な課税や法制度の操作により、**土地**の殆どは旧態依然とした財産制度により拘束され、販売することも投資することも危険すぎた
- このような状況は名譽革命後に**一変**し、政府は投資、貿易、革新を促進する**誘因**を提供する経済制度を制定した。
- 政府は着想に対する**財産権**を付与する特許も含めて、財産権をしっかり保護し、革新に対する刺激を提供した。
- 歴史上はじめて英国法をすべての市民に適用し、恣意的な課税はなくなり、独占はほとんど完全に廃止された。

- 英国政府は商業活動を奨励し、産業活動を妨げる障壁の除去のみならず、商業活動を拡大するために**海軍**の力を全面的に動員した。
- 道路や運河、鉄道など産業成長に不可欠な**インフラの整備**も全力で実施した。
- **産業革命**は、過去の蓄積の知識を利用する主要な**技術進歩**に依存する。
- 科学的探求と貴重な個人能力により可能となる、過去との決別である。
- この革命の推進は開発され応用される技術に対して、機会を提供する市場から生ずるが、**市場**はひとびとがビジネスの正しい方向にかれらの能力を配分することを許容する、包摂的制度である。
- また高度の教育と熟練にも依存したが、新しいビジネスに適用する未来像を描き労働者を採用する、**起業家**の出現を可能とした。
- ワット、アークライトなどの発明家は、彼らの着想が生み出す経済的機会を利用できたのは、かれらの**財産権**が尊重され、かれらの革新が利潤を伴って販売できる市場を利用できることに確信をもっていたからであった。

- 包摂的経済制度は、包摂的政治制度の上に築かれていた。
- イングランドの包摂的政治制度は、二つの要因により制定された。一つは中央集権化された国家であり、二つめは名誉革命であった。
- 名誉革命は、国王と行政部の権力に永続的な制約を課し、広範で強力な勢力の連立の要求に答えることを強制した。
- このことにより最初の産業革命を支える経済的包摂制度の発展を可能とする、多元的政治制度の基礎を築いた。
- 1588年の段階ではイギリス、フランス、スペインの間では差異は殆どなかった。3国はエリザベス1世、フィリップ2世、アンリー3世という絶対主義君主により支配されていた。
- イギリスのparliament, スペインのCortes、フランスの Etates-Generalのように、王室はより多くの権利と国王の統制を要求する市民団体と戦っていた。
- スペイン王室は1942年に巨大なアメリカ帝国を獲得し、金や銀を大量に入手できた。

- イギリスでは王室の**財政の独立性**は低く、エリザベス女王は**増税**には議会に懇願するしかなかった。
- 代わりに議会はより多くの譲歩を迫り、とりわけエリザベス女王の**独占**を結成する権限に**制約**を加えた。
- スペインではCortesが国王に敗北し、国王は貿易を独占した。**小さな差異**が17世紀には大きな差異に変貌。1600年以降に世界貿易が大幅に拡大。
- イングランドは、1585年に北カロライナ州に最初の植民地を建設し、1600年に東インド会社が設立。1607年にはJamestownがバージニア会社により建設された。
- この**経済的拡張**が制度に対して与えた影響は、イングランド、フランス、スペインでは大幅に異なった。
- エリザベス女王はアメリカとの貿易を独占できなかったが、他の2国では国王が独占。イングランドでは王室との関係が薄い**富裕な貿易業者**の集団が形成された。
- 彼らは王室による統制に憤慨し、政治制度の変革と王室の特権の制限を要求した。かれらは、**清教徒革命**や**名誉革命**で決定的な役割を果たした。
- 他国でも類似の内戦は起こったが、イングランドでは富裕な市民が多かったから、絶対主義への反対でも勝利する確率が高かった。

- これらの3国がたどる経路の差異は、**小さな制度上の差異**と**決定的岐路** (critical juncture) との相互作用の重要性を示す。
- 決定的岐路においては、大きな事件や諸要素の集まりが、国家の既存の政治的権力や経済的権力の**均衡を攪乱**する。
- **漸進的改善**には、収奪的政治制度と収奪的経済制度の共同作用から生ずる、強力な**障壁**が多く存在するから、このような決定的岐路が重要。
- **既存**の利益を得ているものは、富裕でありよく組織化されており、かれらの経済的**特権**と政治権力を奪うような変革には、効果的に**抵抗**する。
- 決定的岐路とは、**大西洋貿易**が欧州諸国に提供した**経済的機会**であった。小さな制度上の差異が、決定的岐路においては大きな差異に発展する。
- 歴史の**偶発的経路**は重要。制度発展の経路は、対立する勢力のどちらが成功し、どの集団が効果的な連立を形成するか、どの指導者が自分たちに有利な結末を構造化できるかにかかっている。

- 1688年の名誉革命をもたらすまでの全経路は、偶発的事件のおかげ。王室に対抗する豊かで大胆な商人たちは、**大西洋貿易**の拡大で作り出された決定的岐路と結びついている。
- しかし1世紀前には**イングランド**が海を支配し、カリブ海や北アメリカの多くを植民地化し、利益の大きいアメリカやアジアとの貿易の多くを獲得する能力を有することは未知であった。
- イングランドの海軍は、私掠船(王の特許状を得てや独立した商人の船舶から構成され、1588年にはスペインの**無敵艦隊**はイングランドの海軍を容易に打ち破り、大西洋貿易の独占を強化すると信じられていた。
- しかし悪天候やスペインの突然就任した指揮官の過ちにより、イングランドははるかに強大な無敵艦隊を打ち破った。

- **決定的岐路**がいつも政治革命の成功をもたらすわけではなく、多くの革命や激動がひとりの独裁者を他の独裁者に変えるだけの場合が多い。**寡頭政治の鉄則**(iron law of oligarchy)と呼ばれる。
- イギリスでは王室の財政の独立性は低く、**エリザベス女王**は増税には議会に懇願するしかなくなった。代わりに議会はより多くの譲歩を迫り、とりわけエリザベス女王の独占を結成する権限に制約を加えた。
- **スペイン**ではCortesは国王に敗北し、国王は貿易を独占した。小さな差異が17世紀には大きな際に変貌。
- 1600年移行に世界貿易が大幅に拡大。1585年に北カロライナ州に最初の植民地が建設され、1600年に東インド会社が設立。1607年にはJamestownがバージニア会社により建設。

- この経済的拡張が制度に対して与えた影響はイングランド、フランス、スペインでは大幅に異なった。
- エリザベス女王はアメリカとの貿易を独占できなかったが、他の2国では**国王が独占**。
- イングランドでは王室との関係が薄い**富裕な貿易業者**の集団が形成された。彼らは王室の統制に憤慨し政治制度の变革と王室の特権の制限を要求した。
- かれらは清教徒革命や名誉革命で決定的な役割を果たした。他国でも類似の内戦は起こったが、イングランドでは富裕な市民が多かったから絶対主義への反対でも勝利する確率が高かった。

名誉革命後の諸改革

- 1689年 **権利章典**が發布され、臣民の権利と自由が宣言され、国王の継承が定められ、立憲政治の基礎となった。
- 議会の協賛なしには**課税**できない原則が明確化された。
- 政治制度の多元的性格が出現した。国会議員は選出された。
- 国民は議会に請願できた。絶対主義の消滅と**幅広い臣民**の政治への参加の実現。
- 反対が強く製造業に負担の重かった、竈税の廃止と土地への課税。
- 1694年には英国銀行の創設と**金融制度**の近代化。金融業と銀行業の拡大。
- 中央集権化の推進と**政治的多元主義**の結合。国家の拡大。物品税の課税などの課税ベースの拡大と財政力の強化。
- 任命ではなく能力に対応した政府の**人材採用**。

産業革命

- より安全で効率的な財産権に基づき、**革新者や起業家**に有利な経済制度の根本的改革を断行。
- 運河や有料道路などに対する投資は、**輸送費**を大幅に引き下げた。
- 財産所有権を変えた土地の再編により、土地利用に対する深刻な障壁が除去された。
- 国内繊維生産を**輸入から保護**。The Calico Act of 1921. The Navigation Act of 1651(イングランドの貿易をイングランド船に限定)。
- これらの要因の組み合わせにより、**技術進歩**が急増。
- 動力、James Wattの蒸気機関(1760年代)。冶金、Henry Cortの鉄の不純物を除去する技法。石炭を利用した精錬法。織物産業、Arkwrightの紡績機(1769)、Hargreavesのジェニー紡績機(1764)、John Kayの飛び杼(flying shuttle)、Cartwrightの力織機(power loom)。
- 技術革新と組織革新の組み合わせにより、世界の諸経済を変貌させた豊かにする**経済進歩のモデル**を提供した。

なぜイングランドで

- 独特な**包摂的経済制度**が理由。
- 包摂的経済制度の基盤には、名誉革命でもたらされた、**包摂的政治制度**があった。
- **名誉革命**は財産権を強化し合理化し、金融市場を改善し、外国貿易における国家の認可する独占を弱め、産業の拡大に対する障壁を除去した。
- 名誉革命は、政治制度を経済的必要性と社会の向上心に対して開かれ感応的な、政治制度を導入した。
- 包摂的経済制度は能力と理想像を抱いた人々に、自らと国家に便益をもたらす形で、**技能と着想**を発展させ影響を与えるような**機会と誘引**を与えた。
- 成功者は他者を排除し利益を独占する誘引をもつが、名誉革命以降はそのような独占を維持するのが困難となった。アークライトの特許を裁判所は実施しなかった。

- 名誉革命までの経路は、絶対主義とそれに対抗する勢力との**闘争**。
- 闘争の結果は新たなより強靱な絶対主義の再創設の試みを阻止するのみならず、社会の制度を根本的に変革することを願う勢力に権能を付与した。
- 名誉革命は、**立憲統治**と**多元主義**に基づいた新しい体制の誕生をもたらした。
- ローマ帝国の滅亡後、欧州には封建制度が拡散したが、西ヨーロッパと東ヨーロッパの間には、黒死病のあと急速に乖離が拡大した。
- マグナ・カルタ(1215)はイングランドでは大きな影響力を持ち、17世紀の政治改革以前から、**議会の承認**なしには国王は新税を課税できない原則は定着していた。
- 選良たちから一般国民への**権力の移行**が緩慢ではあるが、1381年の農民反乱(Wat Tyler)に見られるように、着実に進行していた。

- 拡大する大西洋貿易において、王室がそれを**独占**できたかどうかが決定的分岐点を形成した。
- イングランドでは**議会権限**が大きかったので、Tudorも Stuart王室も貿易を独占できず、イングランドに絶対主義を打ち立てようとする計画に激しく反対する商人や事業家の**新階級**を生み出した。
- 米国植民地で富を蓄積した彼らが、1642年の内戦においても、1688年の名誉革命においても、王室の絶対主義に強く反対し、**権力のバランス**を王室から市民側に傾けた。
- 商業化された大規模農業経営者の郷土階級(gentry)、様々な製造業者、大西洋貿易業者などの多様な利害関係者の**幅広い連立**が結成され、Whig党の結成により強化された。
- 多元的政治制度の形成を助長した。行政部のみならず議会の中でも、特定の一集団が過度に強大化し権力を乱用することに対する**抑制**(checks)が働き、多元的包摂的経済制度と包摂的政治制度の確率に資した。